

曾有の大曼荼羅とは名付奉るなり。佛滅後二千二百二十餘年には此御本尊いまだ出現し給はずと云事也。かゝる御本尊を供養し奉り給ふ女人、現在には幸をまねき、後生には此御本尊左右前後に立そひて、闇に燈の如く、險難の處に強力を得たるが如く、彼こへまはり、此へより、日女御前をかこみまほり給べきなり。相構相構、とわり(遊女)を我家へよ(寄)せたくもなき様に、謗法の者をせかせ給べし。捨惡知識、親近善友とは是也。此御本尊全く餘所に求る事なかれ。只我等衆生法華經を持て、南無妙法蓮華經と唱る胸中の肉團におはしますなり。是を九識心王眞如の都とは申也。十界具足とは十界一界もかけず一界にある也。依之曼陀羅とは申也。曼陀羅と云は天竺の名也。此には輪圓具足とも功德聚とも名る也。此御本尊も只信心の二字にをさまれり。以信得入とは是也。日蓮が弟子檀那等、正直捨方便 不受餘經一偈と無二に信ずる故にて、此御本尊の寶塔の中へ入べきなり。たのもし、たのもし。如何にも後生をたしな(嗜)み給ふべし、たしなみ給ふべし。穴賢。南無妙法蓮華經とばかり唱へて佛になるべき事尤大切也。信心の厚薄によるべきなり。佛法の根本は信を以て源とす。されば止觀四云 佛法如海 唯信能入。弘決四云 佛法如海 唯信能入者

孔丘之言 尙信爲首 況佛法深理 無信寧入。故華嚴 信爲道元功德母等。又止一云
何聞圓法 起圓信 立圓行 住圓位。弘一云 言圓信者 依理起信 信爲行本云云。
外典云 漢王信 臣之說也 河上波忽冰 李廣思 父之讎也 草中石飲羽と云り。所詮
天台妙樂 釋分明に信を以て本とせり。彼漢王も疑はずして大臣のことばを信ぜしか
ば立波こほり行ぞかし。石に矢のたつ、是又父のかたきと思し至信の故也。何に況や
佛法においてをや。法華經を受持て南無妙法蓮華經と唱る、即五種の修行を具足す
るなり。此事傳教大師入唐して、道邃和尚に値奉て、五種頓修の妙行と云事を相傳し
給ふなり。日蓮が弟子檀那の肝要、是より外に求る事なかれ。神力品云。委くは又々
可申候。穴賢穴賢。

建治三年八月二十三日

日女御前 御返事

日 蓮 花 押